

科目名	運動障害性構音障害 I					授業の種類	演習	必修・選択	必修
授業回数	15	回	時間数	30	時間	1	単位	配当学年時期	2年 前期
【授業の目的・ねらい】 運動障害性構音障害の特徴、分類、評価法および訓練の計画と訓練方法の技術を修得する。									
【実務者経験】 赤穂中央病院、姫路聖マリア病院等にて、言語聴覚士として機能訓練事業・小児発達訓練事業に従事。									
【授業全体の内容の概要】 運動障害性構音障害の定義と分類、原因疾患とメカニズムおよびその特徴について理解できる。 臨床と国家試験に必要な基礎的知識を身につける。									
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 構音障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等を実施するための基礎を習得する。									
回数	講義内容								準備物(教材)
1	ディサースリアの定義と分類、病変、運動障害のタイプを理解できる。								
2	運動の要素、運動麻痺、運動失調、不随意運動を理解できる。								
3	反射、原因疾患、脳血管障害、球麻痺、感覚障害について理解できる。								
4	関連症候について理解できる。								
5	構音の評価（1）タイプ別の呼吸・発声・構音特徴について理解できる								CDデッキ
6	構音の評価（2）構音検査、発声発語器官検査について理解できる。								舌圧子
7	構音の評価（3）プロソディー検査、随意運動検査について理解できる。								
8	構音の評価（4）機能検査、反射検査、その他の検査を理解できる。								
9	構音検査演習を行い、基本的な手順を理解できる。								AMSD
10	リハビリテーションと医学的治療について理解できる。								
11	訓練：呼吸、発声、構音各側面に対するアプローチを理解できる。								
12	評価・問題点の抽出・訓練プログラム立案について理解できる。								
13	訓練プログラム立案を行うことができる。								
14	コミュニケーション補償、AAC、装具・補助機器などを理解できる。								
15	まとめ								
定期筆記試験									
【使用教科書・教材・参考書】 ディサースリア臨床テキスト									
【準備学習・時間外学習】 神経系の構造や機能に関して基礎知識を復習しておくことが求められる。									
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。									